

「ペンテコステの出来事」

「五旬祭の日が来て、皆が同じ場所に集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から起こり、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると一同は聖霊に満たされ、霊が語らせるままに、他国の言葉で話し出した。」

(聖書協会協同訳 使徒言行録2:1-4)

復活日から50日後に約束の聖霊が降臨し、弟子たちは新たな力を受けて主のご復活を人々に述べ伝えて主を信じる共同体が誕生しました。これが教会の始まりです。聖霊降臨日は教会の誕生日であり、「イースター」「クリスマス」に並ぶ教会の三大祝日と呼ばれます。聖霊降臨日は「ペンテコステ」と呼ばれます。ギリシャ語で50番目の意味です。聖書では五旬祭と記されています。漢字で「旬」は10日の意味ですから、「五旬」は50日という意味です。

旧約聖書の時代からこの五旬祭は神とのシナイ山での契約の祭りとして大事にされてきました。

キリスト教では、いわば神さまとの新しい契約を祝う祭りとなったと言えます。

この五旬祭の出来事は、しばしば「バベルの塔」の出来事と対比されます。創世記11章に記された有名な物語です。

はじめ、世界中は同じ言葉を使って同じように話していたのに、人間の高ぶりのために互いの言葉が聞き分けられぬようにされてしまったことが語られてい

ます。

これに対し、ペンテコステに起こったのは、「世界の人々に通じる言葉が与えられた」という出来事です。そういう形で「バベルの塔」以来の混乱を克服する道が開かれたのです。

ただし、互いに通じない言葉を克服するのに、神さまは、世界中のたくさんの言葉をなくして一つに統一する、というやりかたを取りませんでした。

人々が、それぞれ互いに違う言葉を語っているという状況はそのままです。

しかし、その「違い」はもはや人々を隔てる力を失ったのです。人々の多種多様、多様なありかたはそのまま、神のこぼれ、神の働きかけが、それぞれに通じる仕方で届けられるようになったのです。

神さまは世界中のみんなの神さまなのです。それがキリストの教会です。隔ての壁を越えて歩む教会が立つ理由はまさにこのペンテコステの出来事によって示されたのです。(司祭 越山哲也)

